論文種別

**タイトル**

**－副題－**

（英文論文の場合は和文のタイトルと副題を英文著者の後に記載）

和文著者名は採択後の最終原稿で記載（英文論文の場合は不要）

**Title:**

**Subtitle**

英文著者名は採択後の最終原稿で記載

SUMMARY: This journal uses double-blind review, which means that both the reviewer and author identities are concealed from the reviewers, and vice versa, throughout the review process. A blinded manuscript should be prepared. Manuscripts of research articles, research notes, and review articles should be accompanied with an English summary of approximately 100 words.

Key words: 5 to 8 keywords

和文要旨（和文論文の場合，英文と同内容を記載）

和文キーワード（和文論文の場合，英文と同内容を記載）

 和文および英文所属は採択後の最終原稿で記載

**1.**

本テンプレートは，音声研究投稿のために作成したものです。刷り上がりをイメージしてはいませんが，おおよその刷り上がりページ数を把握することができます（実際は2段組み）。1ページ目のタイトルページは，刷り上がり約1/2ページとなります。

本テンプレート（2ページ以降）1ページで刷り上がり約1ページ（約1760文字）に相当します。

投稿原稿の長さは，研究論文及び書評論文の場合，注，表，図，参考文献を含めて刷り上がり14ページ以内，短信・情報は刷り上がり2ページ以内となります。

**2.**

**2.1**

1.1，1.2，2.1のように書いてください。前には1行空白を入れてください。

**2.1.1**

本文中の図表の参照位置近くに図表を貼り付けてください。図のタイトルは図の下に，表のタイトルは表の上に記載してください。図表のサイズは，横70mm未満で片段配置（組上がりの文字数は半分：図1の場合は6/2行分の文字数），70mm以上140mm以下で全段配置（図2は7行分の文字数）となります。また，図面は提出された図面を加工せずにそのまま使用しますので，印刷した際に図中の文字が読めるように作成してください。



図1．測定方法



図2．測定方法2

表1 測定結果

|  |  |
| --- | --- |
|  | 日本語 |
| A  | 1 |
| B | 2 |

**3.**

　本文中で言及した文献は，参考文献として論文の文末に記載してください。その際，文献は言語別にして和文，英文の順で記載してください。参考文献は，本文中に引用している文献のみを記載してください。本文中では，上野善道（1997, 2009a, 2009b），Kiritani, Itoh and Fujimura （1975），（平山・大島・中本1966, pp. 13–16），(S. Haraguchi 1991, p. 107, M. Sugito and H. Hirose 1978, pp. 35–36) のように記載し，姓名の名またはfirst name を記載してもよいです。

**謝辞**

投稿時，著者情報がわかる記載部分は伏字にしてください。

**〔付記〕**

　投稿時、科研費番号や口頭発表に関する発表先などは著者を特定できる可能性があるため，伏字にしてください。

**〔注〕**

注は脚注とはせず，本文中に通し番号を付し，本文の末尾にまとめて記載してください。

**参考文献**

上野善道（1997）「私のアクセント理論―フィールドワーカーの視点―」『音声研究』1（2）, 28–36.

国立国語研究所『X線映画日本語の発音』ムービー版，http://www6.ninjal.ac.jp/x-sen（2010年5月20日最終参照）

杉藤美代子（1989）「談話におけるポーズとイントネーション」杉藤美代子（編）『講座日本語と日本語教育2―日本語の音声・音韻（上）』343–364，明治書院．

平山輝男・大島一郎・中本正智（1966）『琉球方言の総合的研究』明治書院．

Haraguchi, Shosuke (1988) “Pitch accent and intonation in Japanese.” In Harry van der Hulst and Norval Smith (eds.) *Autosegmental studies on pitch accent*, 123–150. Dordrecht: Foris.

Haraguchi, Shosuke (1991) *A theory of stress and accent*. Dordrecht: Foris.

Kiritani, S., K. Itoh and O. Fujimura (1975) “Tonguepellet tracking by a computer-controlled X-ray microbeam system.” *Journal of the Acoustical Society of America* 57(6), 1516–1520.

National Language Research Institute. “A cineradiography of Japanese pronunciation.” http://www6.kokken.

go.jp/x-sen/ (accessed May 20, 2010)